

エネルギーシステム・要素論

第五回 二次電池

平成27年1月6日

電池の種類

- 物理電池

- 物理エネルギーを電気エネルギーに変換
- 太陽電池
- 熱電対

- 化学電池

- 化学エネルギーを化学反応によって電力(直流)に変換
- 一次電池 放電のみ可能
- 二次電池 充電可能
- 燃料電池

ネルンストの式

$$E = E^0 + \frac{RT}{nF} \log_e \frac{Rd_1 Ox_2}{Ox_1 Rd_2}$$

電池の歴史



肖像
wikipediaより

Alessandro Volta
1745年2月18日 - 1827年3月5日

Sanyo HPより



- ボルタの電池
 - 1800年頃発明
 - オリジナル
 - 銀, 錫, 食塩水
 - 一般には銅と亜鉛
- 乾電池の発明
 - 1885年 屋井先蔵 (日本人)
 - 松下幸之助が発展させる

おもな一次電池の種類

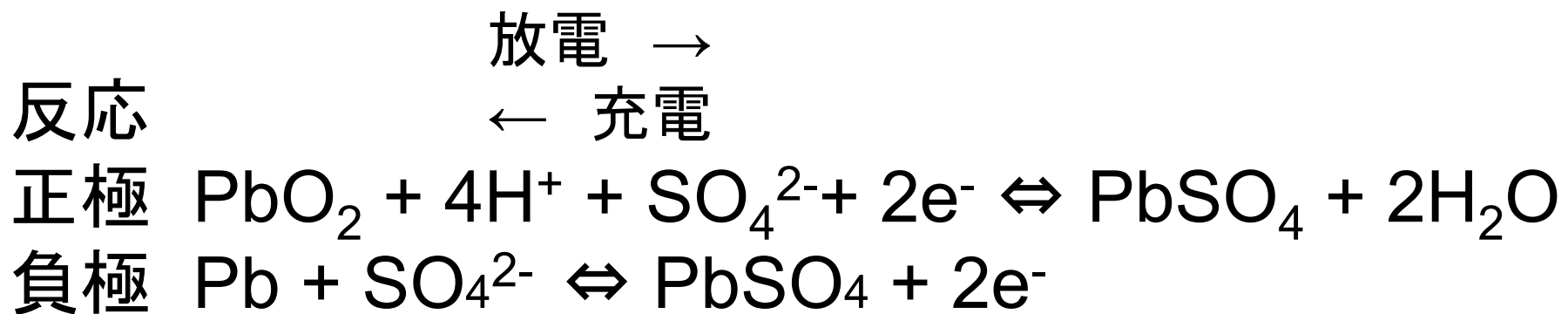
- マンガン乾電池
 - 正極 二酸化マンガン
 - 負極 亜鉛
 - 電解液 塩化亜鉛
 - 電圧 1.5V
- アルカリマンガン乾電池
 - 正極 二酸化マンガンと黒鉛粉末
 - 負極 亜鉛、水酸化カリウム
 - 電解液 塩化亜鉛
 - 電圧 1.5V
- オキシライド乾電池(製造中止)
 - 正極 オキシ水酸化ニッケル, 二酸化マンガン, 黒鉛
 - 負極 亜鉛
 - 電圧 1.5V(1.7V)
- 酸化銀電池(ボタン電池)
 - 正極 酸化銀
 - 負極 ゲル化亜鉛
 - 電解液 水酸化カリウムor水酸化ナトリウム
- 水銀電池(昔のボタン電池)
 - 正極 酸化水銀
 - 負極 亜鉛
 - 電解液 水酸化カリウム+酸化亜鉛
- EVOLTA(アルカリ電池扱い)
 - 正極 オキシ水酸化チタン, 二酸化マンガン, 黒鉛
 - 負極 亜鉛
 - 電圧 1.5V(1.6V)
- その他
 - ニッケル系一次電池
 - ・ ニッケル水素電池とアルカリ電池の合成
 - ・ 正極 オキシ水酸化ニッケル
 - ・ 負極 亜鉛
 - ・ 電解液 水酸化カリウム
 - 空気亜鉛電池(補聴器用)
 - ・ 正極 酸素
 - ・ 負極 亜鉛
 - ・ 電解液 アルカリ金属水酸化物or水酸化カリウム
 - リチウム電池(メモリーバックアップ用)
 - ・ 正極 二酸化マンガン他
 - ・ 負極 金属リチウム
 - ・ 電解液 有機溶媒+リチウム塩
 - 海水電池
 - ・ 正極 酸化鉛or酸化銀
 - ・ 負極 マグネシウム
 - ・ 電解液 海水

主な二次電池の種類

- 一般型
 - 鉛蓄電池
 - リチウムイオン二次電池
 - リチウムイオンポリマー二次電池
 - ニッケル・水素蓄電池
 - ニッケル・カドミウム蓄電池
 - ニッケル・鉄蓄電池
 - ニッケル・亜鉛蓄電池
 - 酸化銀・亜鉛蓄電池
- 液循環型
 - レドックス・フロー電池
 - 亜鉛・塩素電池
 - 亜鉛・臭素電池
- メカニカルチャージ型(負極取換式)
 - アルミニウム・空気電池
 - 空気・亜鉛電池
 - 空気・鉄電池
- 高温動作型
 - ナトリウム・硫黄電池
 - リチウム・硫化鉄電池
 - ゼブラ電池
 - (名称:ゼオライト電池研究アフリカプロジェクトに由来)
 - ナトリウム塩化ニッケル(Na/NiCl₂)電池
 - 深い放電サイクルに強い

鉛蓄電池

- ・ 正極 二酸化鉛
- ・ 負極 鉛
- ・ 電解液 希硫酸
- ・ 電圧 2V
- ・ 安価
- ・ 重い
- ・ 大電流放電可能
- ・ メモリー効果無し
- ・ サルフェーション(負極板表面に硫酸鉛結晶が発生)

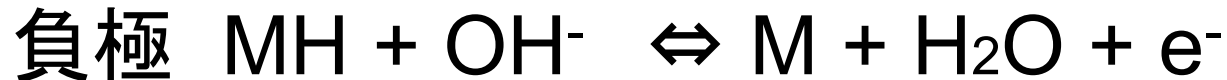
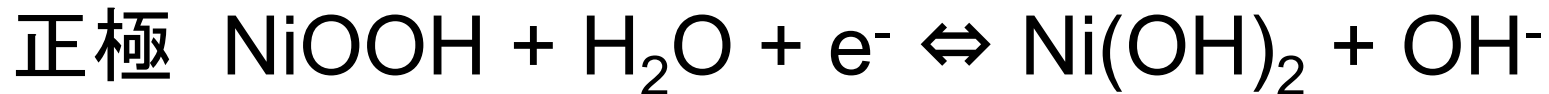


ニッケル水素二次電池

(NiMH: Nickel metal hydride)

- 正極 水酸化ニッケル
- 負極 水素吸蔵合金
- 電解液 水酸化カリウム水溶液
- 電圧1.2V
- 用途
 - ハイブリッド自動車
 - 電池の安全性
 - トヨタ, ホンダ
 - デジカメ
 - おもちゃ
 - ラジコン

反応



M:水素吸蔵合金, MH:金属水素化物

放電 →

← 充電

ニッケル水素二次電池

(NiMH: Nickel metal hydride)

- NiCd電池との比較
 - ニカド電池より容量密度が高い
 - カドミウムを含まない
 - 自然放電が多い
 - メモリ効果
 - 過充電に弱い
- リチウム電池との比較
 - 大電流時放電特性に優れる
 - 単純な回路で充放電が可能
 - 安全性

リチウムイオン二次電池

- 構成(様々あるので下記は例)
 - 負極 炭素等
 - 正極 リチウム遷移金属
酸化物
 - 電解質 有機溶媒(炭酸エチレン,炭酸ジエチル)+リチウム塩(六フッ化リン酸リチウム)
- 高い電圧
 - 高いエネルギー密度
 - 短絡時には急過熱, 発火
 - 保護回路必要
- メモリー効果小さい
 - 継ぎ足し充電
- デンドライトが析出しない
- 満充電状態保存で電池が劣化
- 充放電制御が必要
 - 過充電
 - 負極側に金属リチウム析出
 - 正極の酸化状態が高まって危険な状態になる
 - 過放電
 - 正極のコバルト溶出
 - 負極の集電体の銅溶出
- 1990年旭化成, ソニーが実用化
- 1998年リチウムイオンポリマー電池(ゲル状ポリマー電解質)
- 日本メーカーのシェアが高い
 - 最近では中韓にやられてる
- 小容量機器から大容量機器へ

リチウムイオン二次電池

反応

コバルト酸リチウム正極 (約160mAh/g)



マンガン酸リチウム正極 (約130mAh/g)

